

米国の景気・雇用動向と金融政策

ポイント① 減速しながらも景気回復は続く

最近発表された10月分の米国の各種経済指標を見ると、米景気は7-9月の急反発からは減速しながらも、回復基調を維持していると言えます。

10月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造業は2018年9月以来の高水準に上昇しました。一方、非製造業は6月以降横ばい気味です。ただ、いずれも拡大/縮小の分岐点の50を上回っています。これに対し、米ミシガン大学消費者マインド指数は、回復基調ながら依然低水準です。

11月6日発表の10月の米雇用統計によれば、失業率は6.9%と前月比1.0%ポイントの低下となりました。一方、非農業部門就業者数の前月比増加ペースは、4か月連続で減速しました。

ポイント② FRBは金融緩和継続の姿勢

4、5日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では金融政策の変更はなく、緩和継続の姿勢が示されました。FOMC後の記者会見でパウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長は経済活動は回復しているものの、全体的にはコロナ禍以前の水準を大きく下回り、先行きは不透明としています。

ポイント③ 量的緩和策の行方に注目

FRBはインフレ率が2%を継続的に上回るまで実質上のゼロ金利を継続する見込みです。ただ、国債などの資産を購入する量的緩和策については、どこまで続けるのか、はっきりしていません。株価などのリスク資産価格がかなり上昇した中、量的緩和策を縮小ないし停止すべきではないかという意見がFOMC参加者などから出てくる可能性があります。次回（12月15、16日開催）及びその後のFOMCでの議論が注目されます。

図1：米ISM景況感指数と米消費者マインド指数

期間：2007年1月～2020年10月、月次

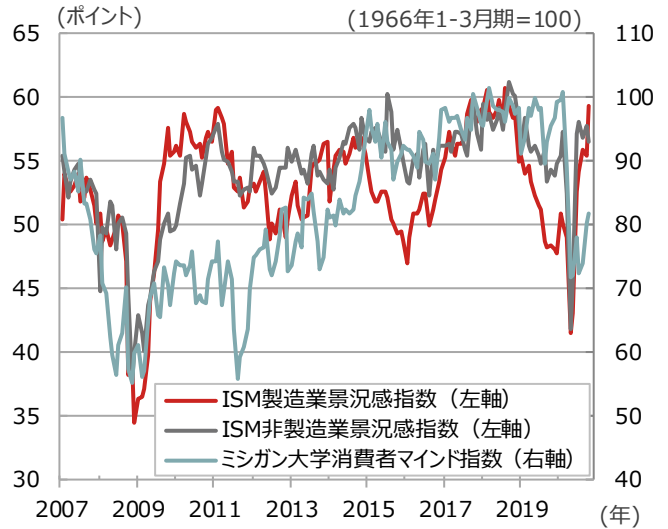


図2：米国の失業率と非農業部門就業者数

期間：2020年1月～2020年10月、月次

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
1月	3.6	63.4	15,221	21.4
2月	3.5	63.4	15,246	25.1
3月	4.4	62.7	15,109	-137.3
4月	14.7	60.2	13,030	-2,078.7
5月	13.3	60.8	13,303	272.5
6月	11.1	61.5	13,781	478.1
7月	10.2	61.4	13,957	176.1
8月	8.4	61.7	14,106	149.3
9月	7.9	61.4	14,174	67.2
10月	6.9	61.7	14,237	63.8

(注) 労働参加率 = 労働力人口 / 生産年齢人口

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

11月13日 米ミシガン大学消費者マインド指数（11月速報）
11月17日 米小売売上高、米鉱工業生産指数（10月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目録見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。